

## 評価結果概要表

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870104738
法人名	有限会社 こころ
事業所名	グループホーム里山
所在地	愛媛県松山市鷹子町乙4 0 2 - 9
自己評価作成日	平成22年9月18日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成22年10月5日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>周りが自然にあふれ、長閑な環境の中でゆったりとした時間が送れる。</p> <p>皆が仲が良く、元気で笑顔が絶えない</p> <p>おやつは毎日手作りを心掛けている</p> <p>行事は重視し、ボランティアや家族の協力を得て実行している。</p> <p>運営推進会議では、参加者に『お土産』として、勉強会の資料を配布している。</p>
---

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>事業所近くの運動公園で、町の行事が行われる際は、事業所のトイレを解放されたり、又、9月の運営推進会議時に、運動公園のトイレ掃除を申し出て地域の方に喜ばれている。運動公園ではいろいろな行事が行われており「町内運動会」が行われた際には、職員が地域の方達とともにリレーに参加して、利用者・職員で応援された。又、地域の「夏祭り」時には、事業所は「ヨーヨー釣り」を出店して、子ども達と交流された。事業所の近くに「貸農園」があり、畑仕事にいられた方に野菜をいただいたり、事業所の畑作業を手伝っていただくこともある。「事業所のクリスマス会」には、近くの幼稚園の園児が来て利用者で過ごしたり、中学生の体験学習も受け入れておられ、子ども達と利用者が触れ合う機会も作っておられる。法人代表者は、地域の小学校でミカン作りを指導されており、管理者は「小学生と交流する中で、ホームのことを知ってもらい、気軽に立ち寄りしてほしい」と話しておられた。事業所は「まもる君の家」としても協力をされている。</p>
--

### ・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)		

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

### 用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム里山

(ユニット名) 空

記入者(管理者)

氏名 竹本 亜矢

評価完了日 22年 9月 18日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>理念に基づく運営</b>				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 玄関に理念を掲げ、日々の申し送りの際声に出し、意識づけを行なっている。 また、スタッフミーティング時に実践出来ているか、再確認をしている。	
			(外部評価) 事業所は「明るく健康で心豊かなその人らしい生活ができる安らぎのある暮らしを支えます。地域と共に支えます。」と理念を掲げておられる。施設長は、日頃から地域の方がホームに協力してくださることをとても感謝されており、地域と交流する中で「事業所が地域にできることはないか」考えながら、取り組みをすすめておられる。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) ゴミ捨てーションの清掃、運動公園のトイレ掃除等少しずつではあるが、実施している。 散歩時の挨拶や、まもるくんの家の登録を行なっている。	
			(外部評価) 事業所近くの運動公園で、町の行事が行われる際は、事業所のトイレを解放されたり、又、9月の運営推進会議時に、運動公園のトイレ掃除を申し出て地域の方に喜ばれている。運動公園ではいろいろな行事が行われており「町内運動会」が行われた際には、職員が地域の方達とともにリレーに参加して、利用者・職員で応援された。又、地域の「夏祭り」時には、事業所は「ヨーヨー釣り」を出店して、子ども達と交流したり、利用者は、花火やフラダンス、盆踊り等を地域の方達と一緒に楽しまれた。民生委員の方が紹介して下さった、オカリナ演奏や紙芝居、絵手紙等の地域ボランティアの方の訪問がある。事業所の近くに「貸農園」があり、畑仕事に来られた方に野菜をいただいたり、事業所の畑作業を手伝っていただくこともある。「事業所のクリスマス会」には、近くの幼稚園の園児が来て利用者とは過ごし、中学生の体験学習も受け入れておられ、子ども達と利用者が触れ合う機会も作っておられる。法人代表者は、地域の小学校でミカン作りを指導されており、管理者は「小学生と交流する中で、ホームのことを知ってもらい、気軽に立ち寄ってほしい」と話しておられた。事業所は「まもる君の家」としても協力をされている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 時に応じ、老人会・町内会の方々にホームを見学して頂いたりして、年々浸透しつつあるが、まだまだ地域に出向き、理解をして頂く必要がある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>地域包括支援センター・民生委員・御家族・その他町内の方々に、理容サービス状況、取り組み等を報告し、意見を頂き、その意見を取り入れるよう努めている。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>会議には、町内会長、民生委員、町の高齢クラブ会長、ご家族も数名参加してくださっている。会議では、事業所の現状や利用料の説明をされたり、災害対策や避難訓練、食中毒予防等についての事業所の取り組みを報告して、意見をうかがっておられる。又、会議時に事業所行事や町内行事時の相互協力についても話し合われている。会議で町内会長から「運営推進会議とは何か」と質問があり、市社協の担当者から会議の定義や運営内容・意義について説明していただいた。会議時、普段の利用者のおやつ(手作りの蒸しパン)を出された際には、ご家族から「おいしい」と感想をいただいたようだ。9月の会議は、地域の方の都合に合わせて日曜日に開催された。</p>	
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>運営推進会議時、伝えてはいるが、日頃から連絡を密にする程ではない。が、問題発生時や分からない事があれば、すぐ相談・報告をしている。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>運営推進会議時、市の担当者から「センター方式のアセスメントの活用について」「地域との持ちつ持たれつ関係の構築」「他グループホームとの交流」「ボランティアの方の会議への出席の呼び掛け」等、事業所がさらに取組みをすすめていくためのアドバイスをいただいた。地域包括支援センターの協力を得て、地区の4グループホーム合同で小学生や先生を対象に「認知症サポーター養成講座」の開催を計画されている。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>身体拘束や玄関等の施錠はしていないが、玄関付近にチャイムを設置し、利用者が1人で出て行かれるのがすぐに分かるようにはしている。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>事業所は、ユニットの出入り口にチャイムを設置し、利用者の動きを職員が気付くようにされている。ベッドから転倒する恐れのある利用者は、床にマットレスを置いて、布団を敷いて休むようにされている。</p> <p>身体拘束について、全職員でさらに知識や理解を深められるように勉強会等を行ってはどうだろうか。利用者の自由と安全について利用者の立場に立って考える機会を作ったり、職員の利用者に対しての言葉かけについても「拘束になっていないか」時に点検されてみてはどうだろうか。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 時折研修に参加し虐待について学ぶ機会を持ち、スタッフミーティング等でも虐待を防止する話し合いを行なっている。また、言葉の暴力も含み、職員同士が声を掛け合い、虐待防止に努めている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修がある際は参加し、参加したスタッフは他のスタッフに報告、学ぶ機会を持っている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約する前は見学に来て頂いたり、面会に出掛け、十分時間をかけ説明を行い、不安を取り除き、納得して頂いた後に契約を結ばせて頂いている。解約の際も、今後活用していくサービス等を紹介し、安心して頂けるようにしている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 玄関に設置している意見箱や運営推進会議等で要望などをお聞きし、出来る事柄から少しずつ取り入れたり、改善を行なっている。	
			(外部評価) 管理者は、ご家族の来訪時や電話で、ご本人の日々の状況を報告して、意見や要望を聞くようにされている。「里山通信」は、季節ごとに発行されており、行事や誕生会の様子を写真を載せて伝えておられる。新人職員の紹介欄や、利用者個々の担当者がご本人の様子を書く「スタッフからの伝言」欄もある。利用者個々の担当者が、行事や誕生会にご家族にも来ていただけるよう電話で誘っておられる。運営推進会議に出席されたご家族からは「家族以上のことをしてくれる」「細かいことまで連絡してくれる」と感想をいただいた。又、ご家族の方がボランティアで習字を教えに来てくださっている。	



自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 里山改革委員会を設置している。 また、ミーティングでもスタッフの意見を気軽に発表出来るように心掛けている。 なかなか皆の前で言いにくい事は、スタッフルームに意見箱を設置している。	
			(外部評価) 事業所では「里山改革委員会」を設置して、フロア長が職員から意見を吸い上げ、代表者・管理者・ケアマネージャー・職員代表者が集まり、事業所のよりよい運営に向けて話し合っておられる。各ユニットで職員が自主的に目標を立てておられ、虹ユニットは「一念発起・一致団結」、空ユニットは「限りなくプラス思考に考える」と決めておられた。さらに、その日の目標を決めて具体的に取り組んでおられる。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 面談を定期的実施し、スタッフのニーズの把握に努めている。また、人事考課も取り入れている。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修の内容により、参加を勧めている。 また、ホームの勉強会でもスキルアップに努めている。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 他のグループホームに見学に行ったり来て頂き、交流し、良い所は取り入れるようにしている。また、グループホーム交流会や、地域の行事などに参加して勉強をさせて頂いている。	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 面接時からニーズの把握に努めると共に、入所時は利用者はもちろん、御家族にも困っている事、不安な事、要望等をお聞きし、遠慮なく言って頂けるよう、関わっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>1日も早くホームに慣れて頂く様に、不安・要望等を傾聴し、少しでも多くの事を取り入れる様努めている。</p>	
17		<p>初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>利用者の思いや御家族の希望を知り、適したケアプランを立て、御家族にも確認して頂き、プランを実行している。</p>	
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>会話を重視したケアを心がけ、家事・レクリエーション・散歩等を通し、出来る範囲の事は御自分で頂ける様手助けしている。 利用者からも、料理や生活上の事を助言して頂くこともある。</p>	
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>御家族との関係の少ない利用者においては、特に連絡を密にし、心を開いて頂けるよう関わっている。</p>	
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>可能な範囲で手紙の返事・年賀状・暑中見舞・電話等の介助をしている。 友人の面会時はホームに来やすい印象を持って頂くよう、明るく接遇面を注意し、関わっている。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>事業所は、絵手紙ボランティアの方の提案で「利用者をご家族に年賀状や暑中見舞いを出す」ことを支援されている。ハガキを受け取ったご家族には「しっかりと宛名書きがなされている」と喜んでいただいたり、このことがきっかけで、県外に住む娘さんやお孫さんが毎月訪問して下さるようになった。月に1~2回は、ご家族と温泉に行く等、外出する利用者もいる。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 行事はもちろん、日々の生活の中でも、洗濯物を他の利用者とたたみ合ったり、一緒に料理したり、レクリエーションや散歩等に参加して頂いたり、孤立気味の方には、話し相手になったり、他の利用者との仲立ちに努めている。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所時に、何か困った事等があればいつでも相談に乗る事を伝えている。 また、ホームの行事などの参加も案内している。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人の思いをお聞きし、可能な限りその意向に沿った生活が過ごせるよう支援に努めている。	
			(外部評価) 職員は、入浴時等の利用者とのおしゃべりの中から、思いを知ったり、意向を聞いたりしている。知り得た情報は、センター方式の「私の願いや支援してほしいこと」シートにまとめて、日々のケアや介護計画に採り入れておられる。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所前の面談・入所後の御家族の面会や日々の関わりの中で把握に努め、スタッフ間でも共有し、ケアにあたっている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日中の暮らしを観察すると共に、言葉や表情から悩みや思いを知るよう関わっている。	



自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人の思いを重視し、御家族にも意見をお聞きし、スタッフ・管理者・ケアマネージャーと相談して介護計画を作成し、ほぼ毎日それらについて確認しており、月末に課題・ケアの見直しを行なっている。	
			(外部評価) ご本人、ご家族の暮らしへの希望等も聞き、職員で話し合い、利用者個々の担当職員と計画作成担当者が相談して、介護計画を作成されている。介護計画に沿ったチェック表で毎日支援状況を確認し、毎月モニタリングと評価を行い、ご本人の状況によっては支援内容を変更する等、現状に即した計画作成に取り組んでおられる。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の記録に、利用者の発した言葉や気づき等を細かく記入するようにしている。 申し送りでも、各勤務帯毎の記録を利用し、計画の見直しにも活用している。	
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) その人その人のニーズに沿ったサービスが出来る限り提供出来るよう、他の利用できるサービスや、ボランティアにも協力して頂く等、柔軟に対応している。	
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 行事（誕生日会・花見・遠足等）や日々の散歩などに参加して下さるボランティアの方も年ごとに増えてきている。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価)</p> <p>掛かり付け医は入所時に御家族の同意を得て、協力医 と契約をして頂き、往診に来て頂いている。 専門医の診断が必要な病気については、その都度御家 族に連絡し、スタッフが同伴し、他科受診を行っている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>協力医療機関の往診は月に2回あり、24時間いつで も相談、対応して下さるようになっていく。歯科や 皮膚科の往診もあり、専門医の受診で職員が同行した 際は、ご家族に電話で結果を報告されている。</p>	
31		看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価)</p> <p>気づきはすぐに看護師に報告し、必要時は受診を行 なっている。 看護師からも利用者の状態に応じ、適切な助言や対応 が来ている。</p>	
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価)</p> <p>入院中は見舞を通し利用者が安心して入院生活が出来 るようにしている。 また、病院関係者との情報交換をし、退院後の生活に 結び付けている。</p>	
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>重度化した場合などは、当ホームでの援助の限界を超 えた場合は医療機関へ協力を仰ぎ、本人が当ホームで 過ごすことを望まれた時は、主治医・家族・ホームが 話し合い、対応している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>入居時に、事業所で出来ることと出来ないことをご家 族に説明されている。現在、事業所に「最期までここ にいたい」と希望されている利用者もあり、複数のご家 族も、事業所での看取り支援を希望されている。</p>	<p>管理者は、現在、事業所の看取りの指針を作成中であ る。事業所で看取り支援を行うことに向けて、まず は、管理者やケアマネージャーが看取り等について勉 強できる研修に参加していくことを考えておられた。 今後作成される看取りの指針に沿って、ご家族の協力 体制や医療機関との連携等、事業所の体制作り等をす ずめていかれてほしい。</p>

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時や事故発生時はマニュアルに沿った対応をしている。消防署による応急処置の方法も定期的を受けている。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 防災緊急連絡網とマニュアルを基に昼夜の対策を立て、定期的に消防署員による訓練を受け、実践力を身につけているが、地震・水害等の防災については、話し合いをする程度で、実際の訓練は実施出来ていない。また、運営推進会議でもよく議題にあがり、状況に応じ地域と協力する事を話し合っている。	
			(外部評価) 今春、消防署の指導のもと、夜間を想定した避難訓練を実施された。事業所の近くに住む職員数名は「防災緊急連絡網」で連絡を受け、事業所に駆けつけ、所要時間を計って見られた。又、職員4名が毛布やシーツを用いて2階ユニットの利用者を階段から避難する訓練をされた。近所の方も5～6名参加していただき、避難誘導や避難後の見守りをお願いされた。消防署の方からは「危機感を持ってシミュレーションすることが大事」とアドバイスいただいた。運営推進会議時には、地域の避難場所を確認されたり、非常食の備蓄があること、又、近所の一人暮らしのお年寄りの避難場所としてホームを使ってもらえること等を話し、相互協力体制の構築に努められる。	
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人一人と関わり合いを持ち、相手の事を考えながら言葉かけをしている。居室に戻られた際は、一人で過ごしやすい雰囲気作りをする等対応をしている。	
			(外部評価) 職員は、利用者へ言葉をかける時には「声のトーン」に気を付けることや「丁寧な言葉遣い」に心がけておられる。又、職員は、薬を飲み込みにくい利用者には、オブラートに包んで飲み込みやすくする等、気を配っておられた。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 会話やケアの中から、本人の思いを知る事が出来るよう関わっている。また、本人の思いを重視して、自己決定出来るように支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 本人のやりたい事などをお聞きし、可能な限り出来るようには支援しているが、一人一人のペースに合わせるとい事は十分には出来ていない。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) その人の希望にあわせ、毎日パックをされたり、定期的にカラー・カットに行く事が出来るようにしている。急に服が買いたいと言われた時は、可能な限り買い物に付き添うようにしている。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 一人一人の好み・自家畑で採れた旬の食材が豊富に使われており、行事ごとのメニューも季節感あふれるものである。 また、利用者の出来る範囲で、無理強いせず、下ごしらえや盛り付け、味付けや後片づけを一緒に行っている。	
			(外部評価) 献立は、利用者の希望も聞きながら職員が立てておられ、事業所で食事作りをされている。利用者が希望する献立で、職員が知らないもの場合は、作り方を教えてもらったり、一緒に作ることもある。介護用の食器等も使って、ご自分で食事できるように配慮されていた。食後は、食器を運びやすいように重ねたり、ランチョンマットを片付けておられる利用者もみられた。利用者の誕生会には、ご本人の希望のメニューでお祝いされており、お寿司の希望が多く、職員が巻き寿司を巻いたこともある。車椅子を使用している利用者は、クッションを使って姿勢を整えて食事できるよう支援されていた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 嚥下食・キザミ食・トロミ食を提供し、介助スプーンや介護食器を利用して頂き、少しでも自立して食事が出来るようにしている。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後口腔ケアを声掛け、介助にて行っている。また、義歯は夜外して頂き、洗浄するようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表を用い、声掛けし、トイレ誘導したりオムツ交換をしている。また、個々の状態に合わせて、2人でのトイレ介助を行い、トイレへの移動動作も日々実施し、日中のみトイレでの排泄が出来るように関わっている。 (外部評価) 排泄チェック表は、排尿・排便等、利用者個々に排泄の時間も分かるように記録されており、声掛けや誘導の目安にされている。衣服等の着脱時に立ってられない利用者は、職員が2名で介助して、トイレに座ってもらえるように支援されている。日中はほとんどの利用者がトイレで排泄をされている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) リンゴ酢やバナナ酢、繊維物の野菜などの飲食物の工夫や、水分量・運動量に気をつかい、排便を促している。3日間出ない時には主治医指示にて下剤を用いている。	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) いつでも入浴が出来る体制を整え、出来る限り個人の要望に応じた入浴を支援している。 (外部評価) 入浴は、夏は2日に1回、冬は3日に1回になっているが、希望があれば入浴でき、毎日入れるよう準備をされている。夕方や夜間に入浴を希望される利用者もおられ、見守り等で支援されている。事業所は、リフトの設備もあり、介護度が重度の利用者も浴槽で温まることができるよう支援されている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 体調など、様子を注意しながらその時の状況に応じて、声掛け・見守り支援を行っている。	



自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) お昼寝を声掛けしたり、居室の明るさや温度・寝具の洗濯や布団干しに気を付けている。夜は静かに過ごせるよう配慮している。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 趣味を活かしたレク等が継続出来るよう、個々の生活歴を重視し、刺し子・アクリルタワシ・割り箸細工・塗絵などを勧めている。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 遠足や菊花展等は御家族や地域包括・地域のボランティアの方々との協力で実施している。希望があれば、個別での外出も実施している。	
			(外部評価) 気候の良い頃は、日常的に外に出られており、調査訪問日にも近くの公園を職員と一緒に散歩されている利用者の様子が見られた。食材の買い出しに職員と出かけることもある。ショッピングモールに「買い物ツアー」に出かけたり、外食、動物園、菊花展等、ご家族もお誘いして一緒に出かけておられる。遠出する際は、地域包括支援センターの協力でボランティアの運転手さんとバスを貸していただけるようになっている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 個人では3000円入りの財布を持たれている方もおられるが、認知症がありほとんどの方が所持出来ないが、買い物ツアーを設けたり、欲しい品は買ってくるなどしている。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族と御本人に何らかの事情が無い限り、電話や手紙のやり取りが出来るように支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>利用者が便利のようにトイレのドアをアコーディオンにしたり、車椅子の方にも入浴を楽しんで頂けるよう、機械浴を取り入れたたりしている。 また、ベランダや花壇に花の苗を植え、四季を楽しんでいる。</p> <p>(外部評価)</p> <p>玄関や居間・食堂には、観葉植物の鉢や季節の花が飾られてあった。春には、食堂の窓から隣の公園の桜の花を間近に見ることができる。壁面には、行事の写真や利用者の習字の作品が飾られていた。居間には畳の間があり、利用者が洗濯物をたたんだり、くつろいだりされている。洗面所の鏡が、車椅子の方が見やすいように斜め下に向いていた。</p>	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>玄関先の長椅子・玄関のテーブル・リビングのソファや畳を利用し、利用者同士で思い思いに過ごされている。</p>	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>御自分が使われていたタンス・鏡台・机など、それぞれに使い慣れた家具等を配置し、その方らしい部屋作りを支援している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>居室の入り口に、ご本人の名前と写真を飾り、ぬいぐるみを飾って、ご自分の居室が分かるようにしているところもあった。居室前の写真は「利用者一人で行った時、探すのに役に立つこともある」ようだ。テレビや椅子を持ち込まれたり、ご家族の写真を飾っておられる方もあった。高台にあるホームで、居室の窓から市街地を一望することができる。</p>	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>居室に名前と写真を貼り、入口に御自分の目印となる物を飾り、自室が分かるようにしている。 リビングの椅子は、必要に応じて肘掛け付きの回転椅子にする等、その人その人に応じた対応をしている。</p>	